

28G-am05

ACE 阻害活性サーモンペプチドの正常高値血圧者および軽症高血圧者に対する有効性と安全性の検討

高橋 義宣¹, 河原崎 正貴¹, 竜田 邦明², 江成 宏之¹(¹マルハニチロ中研, ²早大理工先進理工)

【目的】サケ筋肉を分解して得られるサーモンペプチドは、ACE 阻害活性および自然発症高血圧ラットに対する降圧作用を示した。また、当該品 1 g /日摂取のヒト臨床試験においても穏やかな降圧効果が認められた。しかし、対照群のプラセボ効果やホーソン効果、季節変動によると考えられる血圧低下の為、摂取 6 週目以降の有意な降圧作用が確認できなかった。そこで、サーモンペプチドの有効摂取量の再設定と、その長期摂取時の血圧降下作用および安全性を検証した。

【試験】まず、76 名の軽症高血圧者および正常高値血圧者を対象にし、年齢、性別、収縮期血圧 (SBP)、拡張期血圧 (DBP) で差がない 4 群にランダムに割り付け、4 週間の二重盲検並行群間比較試験によりサーモンペプチド (0、1、2、4 g) の用量相関性を検証し、有効量を設定した。つぎに、長期有効性試験として、被験者 120 名を対象に、上記試験と同様の方法で 2 群に割り付け、12 週間の摂取時における血圧降下作用および安全性を検討した。なお、被検食群にはサーモンペプチドを含有する飲料を、対照群には当該品を含有しない飲料を摂取させた。

【結果】用量相関試験において、SBP、DBP 共に用量依存的に低下する傾向が認められた。また、摂取 4 週間後には、対照群との群間比較において 2g 摂取群および 4 g 摂取群で有意な低値を示し、有効摂取量を 2 g に設定した。長期摂取試験では、対照群との群間比較において、摂取 2~12 週間後の SBP、DBP 共に被検食群 (2 g) で有意な低値を示した。なお、臨床的に重篤な問題は認められなかった。

【結論】以上の結果から、サーモンペプチドは、正常高値血圧者および軽症高血圧者に対して、血圧を適度に降下させる効果があり、かつ高い安全性を有することが示された。